

地域と未来をつなぎ、自ら伸びようとする児童の育成 ～地域のひと・もの・ことをつなぎ、創り上げ、続ける活動を通して～

尾張旭市立瑞鳳小学校

1 主題設定の理由

携帯電話やスマホなどネットワーク環境が子ども達の中にも浸透する中、地域社会での人と人との絆やつながりを大切にする心を育てることが、今後ますます重要になってきている。また、国の動向を見ると、文部科学省が推進している「地域とともにある学校づくり」にあるように、コミュニティスクールや地域本部事業など、保護者や地域住民が学校運営に参画できる仕組みを構築していくことが求められている。

本校や本地区の実態に目を向けると、自治会や子ども会は大変活発に活動し、矢田川の自然や大塚古墳の史跡が残され、特色ある教育やE S D教育ができる土壌もある。しかし、子どもも教師も地域のよさを知らなかったり、地域の人々との関わりが少なかったりして、授業の中で地域教材や地域人材が活かされていないのが現状である。また、子ども達は、ネットやゲームなどの普及によりバーチャルでの会話や遊びが増加する半面、現実生活での原体験や自然体験が減少してきており、学校で身につけた知識や技能を生活の中で活用するまでには至っていない。また、多世代との関わりが少なく、豊かな人間関係を築いたり、人を思いやったりする機会も少ないのが現状である。

このような中、平成26年3月には、尾張旭市教育振興基本計画が発表され、教育理念「つながり合い、伸びる尾張旭の教育」が定められた。また、本校は、愛知県教育委員会より平成26年度「絆を育む学校づくり推進事業」を、尾張旭市教育委員会より平成26・27年度「地域学校支援研究」を委嘱された。このことを踏まえ、尾張旭市の教育理念を具現化するために、本研究を次のように進めたいと考えた。

第1に、学校・家庭・地域のつながりをより強くし、より一層連携・協働し、子どもを育てる体制を構築したい。そのために、学校評議員会を拡大し、コミュニティスクールを視野に入れながら、学校を支援する体制を整え、学校の活性化につなげたい。

第2に、地域の教育力を生かした授業を一層推進したい。そのために、教員の授業力の向上を精力的に推進するとともに、学校を支援するボランティア組織を活性化し、様々な地域教材や地域人材を活用していきたい。

第3に、様々な世代と関わりを持たせ、つながり合う中で、人間性豊かで、生きる力を持った子どもを地域ぐるみで育てたい。そのために、子ども達が地域行事へ参加したり手伝ったりすることを推奨し、次世代を担うことができる資質を養いたい。

以上のことから、本研究主題を設定した。

2 研究仮説

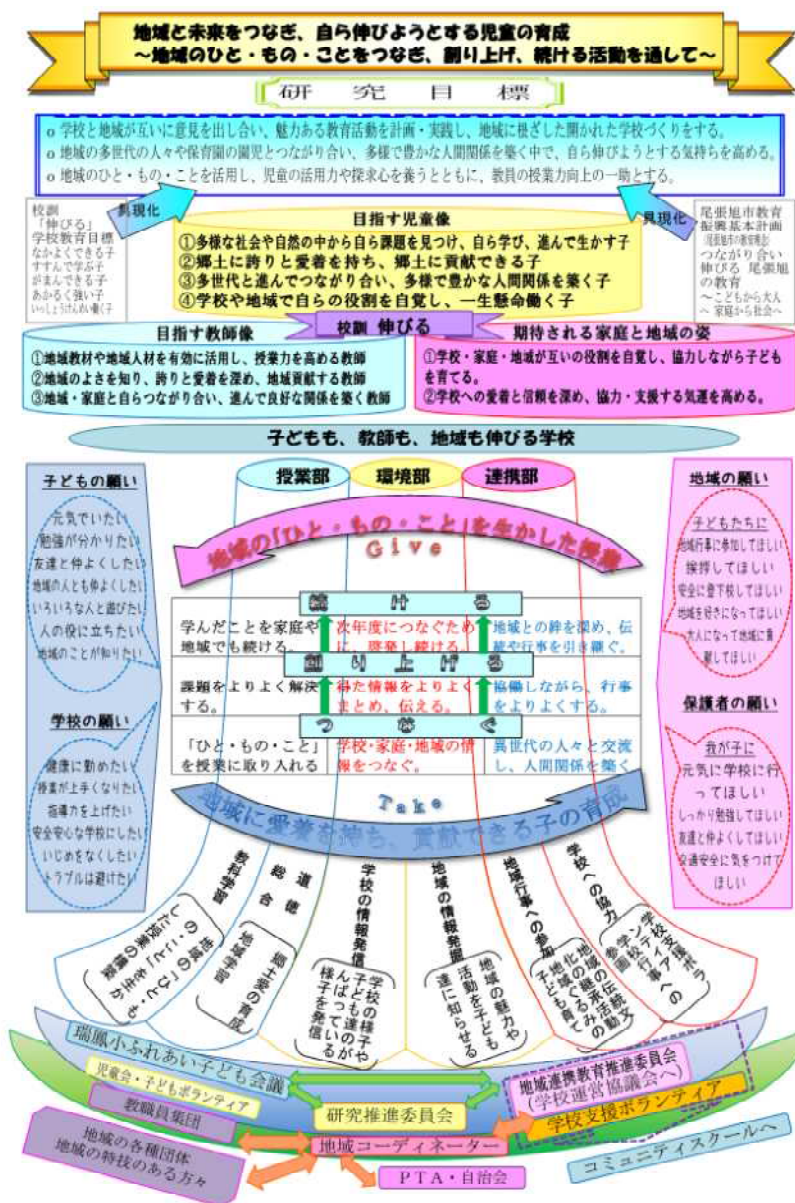
研究主題を達成するために、次のような研究仮説を考えた。

- ① 子どもを中心に学校・家庭・地域が協議したり協働したりする場を設定すれば、それぞれの教育力が活性化し、互いに支え合い高め合う気運が高まるだろう。
- ② 目的を明確にして、様々な世代の人々と関わり合い、つながり合うようにすれば、多様で豊かな人間関係を築き、自己肯定感や自己有用感を高め、自ら伸びようとする気持ちを高めるであろう。
- ③ 授業の中で、地域のひと・もの・ことを意図的計画的に活用すれば、児童の活用力や探求心を高めることができるであろう。また、このことで、教員自身も活用型・探求型の授業展開ができるようになり、授業力が向上するであろう。

3 研究構想図

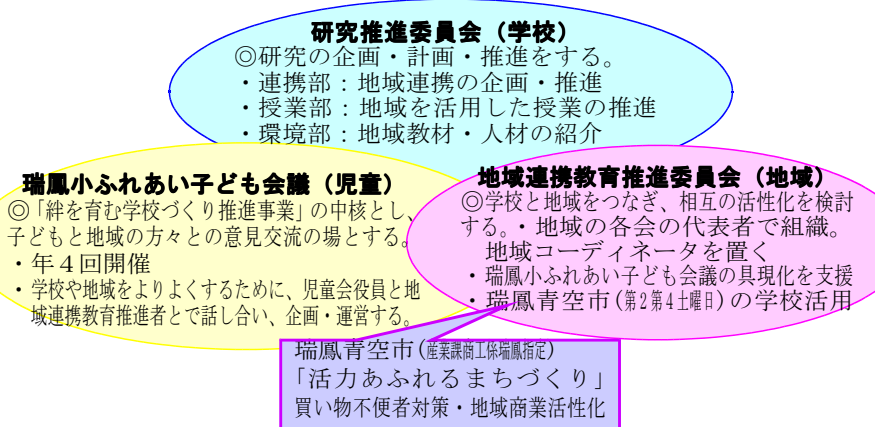
研究を進めるにあたり、右の図のような研究構想図を作成した。

研究目標、目指す児童像・教師像、期待される家庭・地域の姿を達成するために、授業部・環境部・連携部のそれぞれが、サブテーマにある「つなぎ、創り上げ、続ける活動」の具現化を目指し、学校・地域の双方向の連携・協働が一層推進できるようにするとともに、「Give & Take」の関係を樹立させたいと考えた。また、この土台となる組織についても研究を進めるようにした。



4 研究の組織と役割

右の図のように、研究組織を立ち上げた。学校を中心とした「研究推進委員会」と、学校評議員会を母体とした「地域連携教育推進委員会」を設置し、児童との話し合いの場を瑞鳳小ふれあい子ども会議とした。



5 研究の手立て・方法

(1) 地域連携教育推進委員会・地域支援ボランティア会の取組

- ア 地域連携教育推進委員会を組織し、学校と地域のつながりを一層強化する。
- イ 瑞鳳小ふれあい子ども会議を運営し、子どもや地域の方々の思いや考えを具現化するための方策を考える。
- ウ 地域支援ボランティア会を組織し、地域コーディネータが円滑に機能するようにする。また、子どもボランティアを組織し、地域で活躍できる場を設定する。

(2) 連携部の取組

- ア 「瑞鳳小ふれあい子ども会議」を年4回開催し、児童会役員・議員と地域連携教育推進委員と教職員で、地域や学校の諸課題について話し合い、教育活動を活性化させる。
- イ 川南保育園との連携と交流活動を推進する。
 - ・毎学期の読書週間に、6年生を中心に園児への読み聞かせボランティアを行う。
 - ・キャリア教育の一環として、保育士体験（5年生）を行う。
 - ・「園児と遊ぼう会」やフェスティバルでの交流会を行う。
- ウ 地域教材及び地域人材を活用した行事・授業を開発し、実践する。

内容	多文化理解	多世代交流	キャリア教育	ESDと自然体験	防災
地域教材活用 (地域に出る)	敬老茶会ボランティア	保育園との交流 地域行事への参加	青空市で販売 保育士体験	矢田川観察 野菜栽培・米作り体験	防災センター見学 自主防災訓練参加
地域人材活用 (地域を招く)	三味線体験 おこしものづくり	給食交流会 火おこし体験	岩本ケース招 聘	環境パートナーシップ いちじくジャムづくり	災害対策室・自治 会防災担当招聘

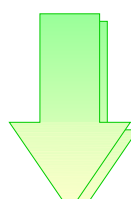
(3) 授業部の取組

- ア 「めあて」等のテンプレートの徹底を図りながら、授業スタンダードを確立する。
- イ 地域連携の素地となる児童の能力をESDをもとに次のように考え、検証する。

- | | | |
|--------------|--------------|-----------------|
| (ア) 建設的に考える力 | (イ) 見通す力 | (ウ) 柔軟で多様な発想力 |
| (エ) 伝える力 | (オ) 共感的人間関係力 | (カ) つながりを尊重する態度 |
| (キ) 主体的参加意識 | | |

- ウ 地域の「ひと・もの・こと」を活用した授業の流れ及び、地域貢献できる児童を育成するための授業のあり方を実践研究する。

また、授業の基本的な流れを次のようにする。

- 
- ①つかむ力 =生活から課題を把握する。
 - ②つなぐ力 =イメージマップを活用して、様々な考えをつなぐ。
 - ③創り上げる力 =議論したり協働したりして、課題を解決する。
 - ④伝える力 =身近な人々に自分の思いや考えを分かりやすく伝える。
 - ⑤続ける力 =課題解決したことを地域や生活で活用し、実践し続ける。

- エ 各教科や総合的な学習、道徳などで地域教材・地域人材を活用できるようにする。

(4) 環境部の取組

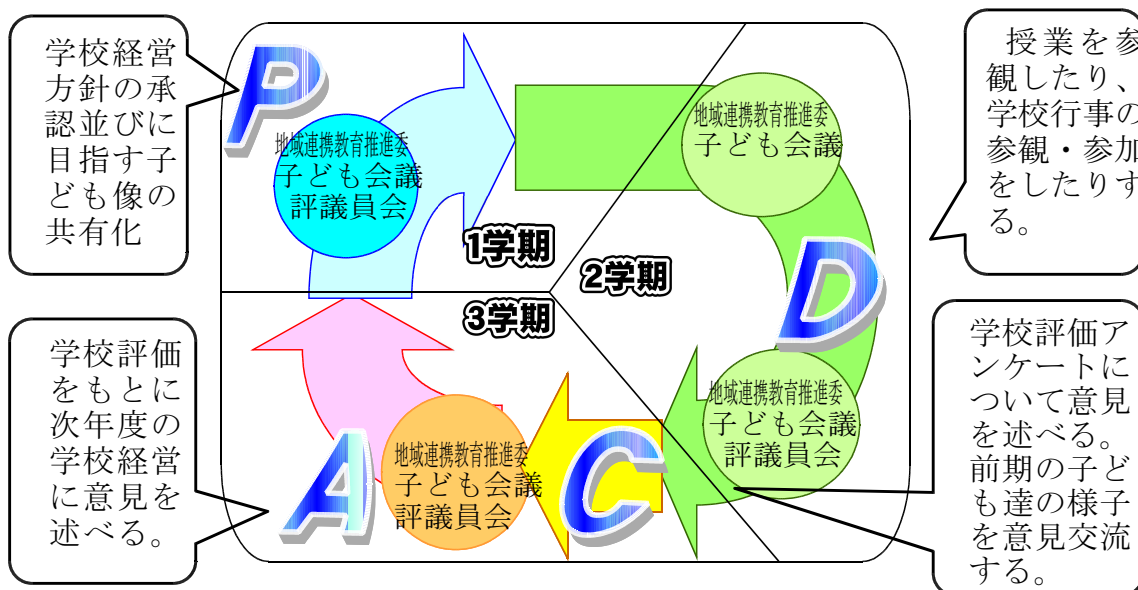
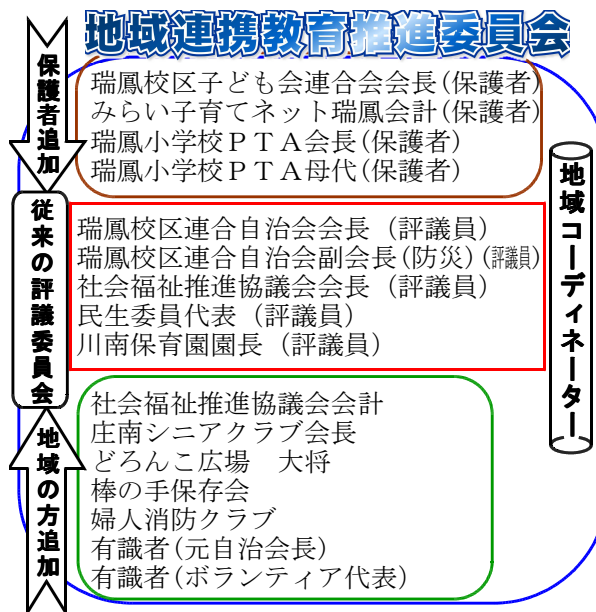
- ア 授業スタンダードを実施するための掲示物等を統一して作成するとともに、落ち着いたある教室環境のあり方を検討する。
- イ 地域の行事に参加できるように、地域カレンダーの作成や地域コーナーの設置等を検討する。
- ウ アンケートの作成、調査、分析をする。

6 研究の実際＜学校支援とコミュニティスクールを進めるための取組＞

(1) 組織改革の実際

コミュニティスクールを視野に入れた組織を再構築するために、右図のように、学校評議員会をもとに、PTAを始めとする保護者の組織及び、地域の様々な組織の代表を追加し、地域連携教育推進委員会とした。これは、瑞鳳小ふれあい子ども会議の構成員にもなるようにした。

学校評議員会は、瑞鳳小ふれあい子ども会議と同じ日に開催することにした。下図のように、1学期は、学校経営方針の承認をし、目指す子ども像を共有化した。2学期は、前期までの子ども達の様子について意見交流するとともに、学校公開日の保護者・児童のアンケート結果を検討したり、学校評価アンケートについて意見を聞いたりした。3学期は、学校の自己評価や保護者アンケートについて、評議員としての評価をしていただき、次年度の学校経営作成の参考とした。



(2) 学校支援ボランティアの活用

既存のボランティアを含めて、右の表のように新たなボランティアとして、社会科ボランティア、家庭科ボランティア、緑化ボランティア、丸付けボランティアを募集し、学校を支援する体制を強化した。さらに、新たに地域コーディネーターを自治

氏名	平成27年度ボランティア名簿								
	社会科ボランティア			家庭科ボランティア			緑化ボランティア		丸付け
	教科書後の話	七福火起こし	普通び	教壇・読書発表	白衣掃除	花作り	野菜作り	まじゅうロード	丸付け
〇〇 〇〇						〇	〇	〇	〇
〇〇 〇〇						〇			
〇〇 〇〇						〇	〇	〇	
〇〇 〇〇				〇	〇				
〇〇 〇〇		〇		〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇 〇〇		〇		〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇 〇〇				〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇 〇〇						〇	〇	〇	〇
〇〇 〇〇						〇	〇	〇	〇

会長に依頼し、社会科の戦争体験者や尾張旭市の昔の話ができる方を探していただいたり、防災倉庫の見学や説明会の取り計らいをしていただいたりするなど、地域の人材の発掘や活用について協力していただくとともに、学校と学校ボランティアの連絡調整ができる体制を整えるようにした。

ア 図書ボランティア活動の拡大

読書週間での読み聞かせや20分放課での読み聞かせ以外に、夏休み中に本を読んだり勉強したりできるように図書室を一部開放するため、夏休み図書室開放ボランティアをしていただいた。また、傷んだ本の修繕や昇降口への詩の掲示もしていただいた。



夏休みの図書室開放の様子

イ 丸付けボランティアの活動

算数の練習問題やまとめの学習のときに、丸付けをするボランティアを新設した。これにより、子ども達は丸付けを待つ時間が少なくなり、学習時間が増えるという効果が得られた。また、教師は個別指導と質問への対応に徹することができるようになり、つまづいて困っている子どもを救うことができ、学力向上への一助となった。学習の流れは、



丸をつけてもらう様子

①問1を解く→②丸付け→(間違えた場合はやり直し丸付け)→③ネームプレートを黒板上の問1から問2へ移動→④問2を解く→丸付け……

※教師は黒板上のネームプレートを見て進み具合が遅い子を個別指導する。

子どもの感想①
スムーズに丸付けがやれ、てもらえて、すぐに次の問題がやれ、なにがまちがっているかをすぐにやさしく教えてもらってよかったです。

ウ 家庭科ボランティアの活動

高学年の家庭科の裁縫の授業のときに、ボランティアとしてきていただいた。5年生の「玉結び・玉どめ・ボタン付け」や「なみ縫い・返し縫い・かがり縫い」、「小物製作」の授業では、事前の申し合わせとして、やり方は教えるが、全部はやってしまうことがないよう徹底した。

子どものアンケートから>

- ・ わかりやすく教えてくれてよかったです。こまるとすぐきてくれてとてもうれしかったです。
- ・ かがり縫いなどをどうやらきれいにできるかとかを教えてもらった。さいほうは苦手だったからボランティアの人にきてもらってうれしかった。
- ・ 教えてもらう前は、本返し縫い、半返し縫い、かがり縫いがわからなかったけど、教えてもらってわかるようになってよかったです。家でも小物入れを作りたいです。
- ・ 玉むすびや玉どめがじょうずにできる方法を教えてもらいました。

子ども達は、積極的に質問し、優しく丁寧に教えてもらっていた。事後アンケートでも、肯定的な意見が多く、家庭科ボランティアは、有効であった。

(3) 外部人材の活用

本地域の豊富な経験や知識をもった方々を外部講師として積極的に授業に招いた。

例えば、6年国語「町のよさを伝えるパンフレットを作ろう」では、尾張旭市と瀬戸市のパンフレットを作っている会社「アサヒトセト」から講師を招き、パンフレットづくりにおいて、必要な視点や具体的な工夫の仕方について説明をしていただいた。子ども達が作ったパンフレットは、「アサヒトセト」の記事となり、紹介された。



ゲストティーチャーの話

7 研究の実際<研究部会（連携部・授業部・環境部）の取組>

研究を進めるにあたり、連携部・授業部・環境部の3部会を設定して研究を推進した。

【連携部の取組】

瑞鳳小ふれあい子ども会議、保育園との交流、地域との交流などに取り組んだ。

(1) 瑞鳳小ふれあい子ども会議

瑞鳳小ふれあい子ども会議の設置は、県教委委嘱の「絆を育む学校づくり事業」の必須課題であり、これを市教委委嘱「地域学校支援研究」にも活用した。

ねらい：児童・教師と地域の方々が、学校や地域の課題について互いに意見を出し合い、魅力ある教育活動を計画・実践し、地域とともにある学校づくりをするとともに、児童や地域の方々の自己実現を果たす。

組織：地域連携教育推進委員（評議員を含む13名）と児童会役員・議員（19名）

回数：児童会の任期に合わせて、前期2回、後期2回、合計4回開催

内容：共通テーマ「ふれあい活動」と時事テーマ

ア 第1回瑞鳳小ふれあい子ども会議(H26年5月)

時事のテーマを「瑞鳳小学校のよいところと課題」とした。児童からは、よいところは「①瑞鳳まつり②元気がよいところ」、課題や行いたいことは、「①地域交流②あいさつ運動③ものを大切にしたい」などが出た。地域の方々からは、よいところは「①学年を超えて仲よし②まとまりがよい」、課題は、「①地域のいろ



いろな会に参加してほしい②あいさつを子どもからし てほしい」などの意見が出た。共通テーマ「ふれあい活動」については、ブレインストーミング手法を使い、短冊にやりたいと思うことを自由に書いてもらった。

児童会の意見を発表する様子

イ 第2回瑞鳳小ふれあい子ども会議(H26年7月)

時事テーマ「地域防災」では、最初に4年生が総合的な学習で調べてきた地域の防災マップを基調提案し、その後、地域防災について「やってみたいこと」「してほしいこと」を、短冊に書き黒板に分類しながら話し合った。いろいろな意見があり、子どもも地域の方々も参考になった。



分類された短冊を見ている様子

ウ 第3回瑞鳳小ふれあい子ども会議(H26年12月)

時事テーマ「地域防犯」では、「防犯ブザーの点検をすること」「110番の家をどう確認するか」等について話し合った。今回は児童と地域の方々が小グループになって話し合いを行った。子どもと大人が膝を交えて話し合うことができた。



小グループでの話し合いの様子

エ 瑞鳳小ふれあい子ども会議を通しての変化

児童と地域の方々が話し合いをすることによって、子ども達の考えもより広がり豊かになってきた。また、地域の方々も子ども達のことや学校について理解が深まり、つながりが一層深まった。また、運動会の地域参加種目の大玉送りや給食交流会など実現できたものもあり、子どもも地域の方々も学校運営に参画でき、地域とともにある学校づくりの一助となった。

参加した地域の方々の感想

感想をお書きください。
ごんごん会議に参加が楽しみにして参加させて頂きました。
子供達の意見を聞いて、びっくりしました。
良い会になったと思います。

(2) 保育園との連携と交流

平成26年度、川南保育園の園舎建て替えに伴い、1年間瑞鳳小学校の北館に仮移設された。このことをきっかけに、川南保育園との連携・交流をさらに強化し、キャリア教育の一環として、5年生の保育士体験と6年生の読み聞かせを行うようにした。また、様々な機会に園児と交流することで、思いやりやいたわりの心を育てるようにした。

ア 5年生の保育士体験

5年生は、12月にキャリア教育の一環として、川南保育園で保育士体験を行った。園庭や多目的室で簡単な遊びをしたり、リースづくりを一緒にしたり、給食の手伝いをしたりした。保育園からは「園児がとっても喜んでいたらよ」と大変感謝された。5年生にとっても職業観やいたわりの心を育てることができた。

また、学校集会で、4名の代表児童が保育士体験について、その大変さや生きがいなどを発表した。働くことの大切さをより一層理解することができた。



保育士体験の様子

イ 園児への読み聞かせボランティア活動

6年生は、各学期の読書週間後半に、昼放課を利用して、川南保育園で読み聞かせボランティアを行った。ボランティアの希望者が多いため、毎日違う児童が読み聞かせをした。どの子も表情がとてにこやかになり、思いやりの心やいたわりの心が育った。また、この体験を通して園児のためにボランティアとして働くことの大切さも体験することができた。

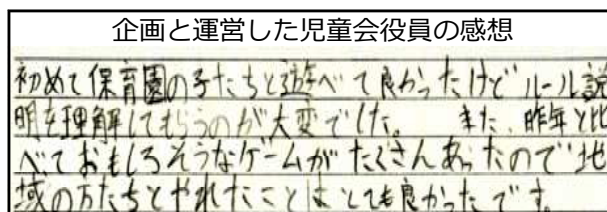


新園舎での読み聞かせの様子

ウ 園児と遊ぶ会

11月より、月3回昼放課に、希望小学生と園児とで、外遊びをすることになった。

例えば11月は、1・2年生はひょうたん鬼、3・4年生は島鬼、5・6年生はサンドドッジなどをした。園児と遊ぶことによって、思いやりの心やいたわりの心を育てることができた。



(3) 地域の方々との交流

「地域の子は地域で育てる」を具現化するために、地域の方々を学校に招いたり、子ども達が地域行事に参加するよう促したりし、地域の方々との交流する機会を増やした。

ア 稲作を通じた交流活動・体験活動

瑞鳳小校区では、例年どろんこ広場で、「田植えまつり」「収穫祭」(稲刈り)があり、子ども達と保護者、地域の方などとの交流を図っている。これとは別に、5年生は、総合的な学習の時間の一環として、どろんこ広場の方を招いて、昔ながらの田植えと稲刈りを行った。初めて体験する子もおり、大変苦戦していた。



また、6年生は、例年9月初旬に地域の方々の協力を得て、案山子づくりをしている。子ども達は、地域の方に教えてもらいながら思い思いの案山子を楽しく作っていた。完成した案山子は、どろんこ広場に設置した。

地域の方々との田植え体験の様子

イ 運動会での交流や給食交流会

瑞鳳小ふれあい子ども会議で話し合ったことを具現化し、運動会では地域の方々と一緒に大玉送りを行ったり、9月15日(旧敬老の日)に地域の方々と給食交流会をしたりした。



会話を楽しむ地域の方々



大玉おくりを楽しむ地域の方々

(4)子どもボランティア活動と地域での活躍

地域に支えられるだけでなく地域を支えるシステムとして、子どもボランティア活動を発足した。このことによって、自己有用感や地域の一員としての自覚を育てるとともに、ボランティア精神を養い、地域に貢献できる人材を育てるようにした。

ア 盆踊りボランティア

瑞鳳校区盆踊り大会では、平成26年度から自治会が中心となってジュース交換のボランティアを企画し、実践した。ボランティアの子ども達も地域の方々も喜んでいた。



ボランティアを楽しむ様子

イ 野菜の栽培・販売

瑞鳳小校区では、産業課の委嘱により、平成26年度から月末の土曜日に青空市をしている。これに協力するために、学級園でキュウリや大根などの野菜を育て、青空市で販売した。朝採りした野菜を水で洗い、新鮮な野菜を届けるようにした。子ども達の威勢のよい「いらっしやい」のかけ声に、多くの地域の方が集まってきた。子ども達は、お金の計算をしたり販売のしくみを考えたりして、算数や社会で学習したことを実生活で活用していた。また、これは、キャリア教育や起業家教育の一助ともなった。



青空市での販売の様子

(5)土曜・日曜の地域行事への参加奨励

豊かな体験活動や多様な人間関係ができるように、土曜・日曜に行われる地域行事を積極的に紹介し、参加を促し、よりよい土曜・日曜の過ごし方を提供した。

ア 自主防災訓練・避難所体験

11月の自主防災訓練では、消火器体験・煙道体験以外に、学校による段ボールのパーティションづくり(H26)、ポリ袋のカップ、段ボールシェルター(H27)を行った。

また、8月の避難所体験では、PTA、婦人会と協働して、簡易トイレ作りや懐中電灯探しなどを行った。



簡易トイレ作りの様子

イ PTA企画の事業

PTAでは、例年11月に親子参加の全体事業を行っている。「ものづくり」(H26)「職業体験」(H27)をテーマに、講師の先生に教えていただきながら、親子で楽しく取り組んでいた。

また、運動場壁画ペンキ塗りでは、33家族87名が参加した。今回は父親の参加を積極的に呼びかけ、父親と子どもの交流を図り、家族の絆を深めた。

運動場壁画ペンキ塗り感想(児童)

壁画、ペンキぬりは、親子のきずな、お父さんやお母さんのきずなが、深まるのでよかったと思う。



家族で行事に参加する様子

【授業部の取組】

授業部では、①地域の「ひと・もの・こと」を活用した学習、②地域に愛着を持ち貢献できる子を育てる学習のあり方について取り組んだ。そして、その土台となる「授業のスタンダード」や基本的な授業の流れなどを検討し、教員間で共通理解を図った。

(1) 学習・授業の土台づくりの取組

学習・授業のスタンダード（基本）		
展開	子どもの学習スタンダード	教師の授業スタンダード
開始	<input type="checkbox"/> チャイム着席をする。 <input type="checkbox"/> 教科書、ノートを机の上に出す。 <input type="checkbox"/> 号令で、しっかり挨拶する。	<input type="checkbox"/> 授業に関係ないものを黒板や教卓のまわりに置かないようにする。（整理整頓） <input type="checkbox"/> チャイムと同時に授業を開始する。 <input type="checkbox"/> にこやかな表情で緊張感のある静けさを創り出す
導入 (課題・見通し)	<input type="checkbox"/> 課題は黙ってノートに書く。 <input type="checkbox"/> 先生の話は、姿勢を正して、顔を見て聞く。 <input type="checkbox"/> 本を読むときは、本を両手で持ち、よい姿勢で読む	<input type="checkbox"/> めあてを板書し、ノートに書かせる。 <input type="checkbox"/> 発問は、具体的にわかりやすくし、目標(課題)を明確にする。 <input type="checkbox"/> 写真・具体物やICT機器で興味・関心を高める。 <input type="checkbox"/> 手だてや見通しを明確にする。
展開前 (一人学び)	<input type="checkbox"/> 考えているときは話さないで、集中する。 <input type="checkbox"/> 書いたり操作したりして、考えを深めたり広げたりする。 <input type="checkbox"/> 質問は静かに手を挙げる。	<input type="checkbox"/> 静かに考える時間を5分程度確保する。 <input type="checkbox"/> 机間指導は、思考の妨げにならないよう、一人一人を褒め・励まし・勇気づける。 <input type="checkbox"/> 相関図(イメージマップ)や絵図等を使ってアイデアを書かせる。
(1人ア 小集団)	<input type="checkbox"/> 座席移動は素早く静かにする。 <input type="checkbox"/> 声は中ぐらいの声で話す。 <input type="checkbox"/> 積極的に発言する。	<input type="checkbox"/> ペア・小集団(グループ)学習への指示は短く、明確にする。 <input type="checkbox"/> グループで、意見を絞ったり広げたり交流したりさせる。 <input type="checkbox"/> 独り言やつぶやき等を聞き取り全体に生かす。
展開後 (風合い)	<input type="checkbox"/> 黙って手を挙げ、指名されたら、返事をして立ち、みんなの方を向いて発表する。 <input type="checkbox"/> 「です」「ます」をつけ、語尾までしっかりと話す。 <input type="checkbox"/> 聞き手は、発表者の方を向き、姿勢をよくして話を聞く。	<3共の態度> <input type="checkbox"/> ①「うなずき」「相づち」に心がける。(共感) <input type="checkbox"/> ②「ハイ、次」から脱却し、子どもの発言を揺さぶり、つなぐよう心がける(共鳴) <input type="checkbox"/> ③問い返し、学びの共有化を図る(共有) <input type="checkbox"/> 発言を板書するときは、四分六の構えで板書する。(4は黒板を、6は子どもを見て) <input type="checkbox"/> つぶやきの取り上げや意図的指名で、子どもの出場を演出する。 <input type="checkbox"/> 冷やかし・ふざげは厳しく指導する。 <input type="checkbox"/> 板書とノートの一致を図る。 <input type="checkbox"/> 結果だけでなく経過も褒めるようにする。
振り返り	<input type="checkbox"/> 板書は黙ってノートに書く。 <3共の行> ①黙って聞く ②黙って書く ③黙って待つ	<input type="checkbox"/> 大切な箇所は色チョークなどで強調して板書する。 <input type="checkbox"/> 教師は丁寧な言葉遣いでまとめる。 <input type="checkbox"/> 重要な語句は2度繰り返して言う。
定着	<input type="checkbox"/> 黙って練習する。 <input type="checkbox"/> 分からないことは、小声で聞く。 <input type="checkbox"/> できたら、静かに待つ工夫をする	<input type="checkbox"/> 遅進児への個別指導計画を立てておく。 <input type="checkbox"/> 早くできた子への対応を考えておく。 <input type="checkbox"/> タイマー等で時間を意識させる。
次時予告	<input type="checkbox"/> 次時に必要なことをメモする <input type="checkbox"/> 号令で、しっかり挨拶する。	<input type="checkbox"/> 次時の指示は、短く印象的にする。 <input type="checkbox"/> チャイムで終わる。(教師が時間を守る)

また、地域の「ひと・もの・こと」のテンプレートを用意し、地域の「ひと・もの・こと」を意識させるようにした。例えば、1年の生活科「がっこうだいすき」では、学校の施設の様子(もの)や生活を支えている人々(ひと)を意識した授業を行った。

エ ICT機器書画カメラの活用

ICT機器書画カメラやデジタル教科書・教材を「いつでも・どこでも」使うようにした。3年生社会「店ではたらく人」では、スーパーマーケットの様子を書画カメラで撮影させていただき、授業で掲示した。また、インタビューの動画を提示し、店員の思いや願いに気づかせ、学習を深めた。

ア 学習・授業のスタンダード

学習・授業の土台を確立するために、左表の学習・授業のスタンダードを作成し、共通理解を図った。授業研究では、スタンダード表の□にチェックを入れて活用した。

イ 聞き方・話し方の約束

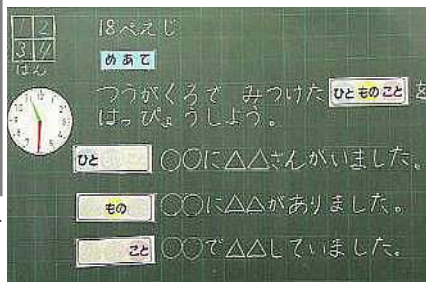
聞き方・話し方や姿勢などの態度を意識させるために、発達段階に応じたルールを教室の前面に掲示した。



低学年の掲示

ウ テンプレートの活用

「めあて」「考え」「大事」「問題」「まとめ」のテンプレートを各教室に用意し、児童から出された多様な発言を焦点化することで、わかりやすい授業を目指した。



テンプレートを活用した板書



教師のICT機器書画カメラの活用

(2) 授業の基本的な流れの実践

① つかむ力（生活から課題を把握）

5年生理科「流れる水のはたらき」の学習では、前時の川と川原の様子をまとめた表と、上流・中流・下流の川原で実際に採取した石をもとにして、めあてを「流れる場所によって、川の石のようすには、どのようなちがいがあろうか？」とした。この後、石の大きさ・形の違いや各流域の特徴に注目させながら、授業を進めた。



川原の石の提示

② つなぐ力（様々な考えをつなぐイメージマップの活用）

6年生国語「町のよさを伝えるパンフレットを作ろう」の学習では、尾張旭市のよいところについて、ブレインストーミングを行い、様々な異なる意見をつなぎ合わせてイメージマップを完成させた。この活動を通して、子ども達は地域の「ひと・もの・こと」について視野を広げたり、関連性に気付いたりすることができた。その後のパンフレットのレイアウトを考える段階では、イメージマップを参考にして同じページに関連する内容を盛り込み、地域の多様な情報を掲載したパンフレットを作成した。



イメージマップを使って

③ 創り上げる力（議論したり協働したりして、課題を解決する学習）

3年生では、社会科の学習で校区探検を行い、瑞鳳校区にはどんなお店があるか、どんな公共施設があるかなどを調べた。そこで、各自で調べたことをもとに、小グループで協力しながら校区地図を完成させた。また、作った校区地図を見て、どんな特徴があるかを小グループで話し合った。グループで話し合うことで児童は多様な考えにふれることができた。また、全体で発表できない児童も自分の考えを話すことができた。



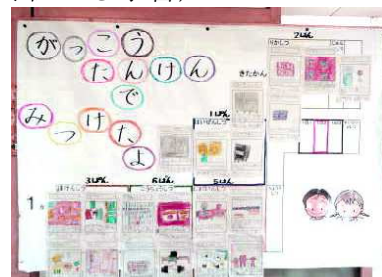
話し合いの様子

④ 伝える力（身近な人々に自分の思いや考えを分かりやすく伝える学習）

1年生では、グループごとに学校探検で見つけた「ひと・もの・こと」を発表し、校内の地図に「みつけカード」を貼った。児童の「みつけカード」を画面カメラでテレビに映し出し、一人一発表をするようにした。



発表する児童の様子



「見つけたよカード」

⑤ 続ける力（課題解決したことを地域や生活で活用し実践し続ける活動）

2年生の生活科「生きもの なかよし 大作せん」の学習では、授業中に探しに行ったどろんこ広場や矢田川以外にも、公園や学校内の観察池にも興味を広げ、関心を持たせ続けるようにした。また、その中で、授業で学んだ採集方法などを活用して、いろいろな生き物を見つけ、図鑑で調べるようにした。子ども達は見つけた生き物を喜んで見せにきていた。



学校で見つけたよ

【環境部の取組】

連携部と授業部の実践内容をつなぐために、地域の様々な「ひと・もの・こと」に関する校内掲示を充実するようにした。また、地域行事を紹介し、地域行事への関心を高め、参加度を高め、地域への愛着と誇りを持たせるようにした。

(1) 校内掲示の工夫

ア 職員室前の掲示

職員室前の掲示板には、12か月分の学校行事と地域行事を掲示し、児童や来校者に知らせるようにした。終了した行事については、その時の写真や実際に参加した児童の感想を掲示した。新聞等に記事が掲載された場合は、その部分を拡大して掲示するようにした。また、今後行われる行事については、案内やチラシなどを掲示し紹介した。児童の写真や感想を掲示することで、児童の関心を高めるようにした。また、年間の行事予定を掲示することで、児童が「来月、〇〇の行事があるから、行きたいな」といった見通しを持たせるようにした。



地域の行事紹介



職員室前の地域掲示板

イ 各教室の掲示

児童の作品だけではなく、授業で活用した「ひと・もの・こと」を継続的に掲示するようにした。また、掲示委員作成のポスターを昇降口同様に、教室にも掲示し、参加を促すようにした。



児童館の行事を呼びかける掲示

ウ 校外からの情報掲示

地域に関連する行事について、その様子が伝わるように掲示した。それが、地域行事への参加意欲を高めたり、地域のことを知り地域の一員としての自覚を高めたりすることにつながってきた。



2年 じどうかんたんけん

エ 地域カレンダーの活用

尾張旭市内の風景の写真とともに、その月の地域行事が入っているカレンダーを各教室に掲示した。このようにすることで、いつどのような行事があるかを事前を知ることができるようになった。右図の8月のひまわりの写真は、瑞鳳校区の矢田川河川敷に地域の人と植えたひまわりである。



地域カレンダー

8 研究の実際<学年の取組>

研究を細部まで進めるために、各学年でも取り組んだ。

(1) 4年総合的な学習「防災について考えよう」の取組

地域の防災に関する「ひと」や「もの」に着目し、調べたり話し合ったりすることで、防災意識を高めることをねらいとして、学校の中庭にある防災倉庫見学を5月に計画した。自治会の担当者7名と市役所の方2名をゲストティーチャーに招き、説明していただくことになった。以下は、見学する前時の授業の様子の一部である。

- T : 瑞鳳小学校には防災倉庫がいくつあるでしょう。
 C : 3つ
 T : どこにあるか知っていますか。
 C : 中庭にある。
 T : 防災倉庫はなんのためにあるのでしょうか？予想してみよう。
 C : 学校が火事になったときのため
 C : 学校をまもるため
 C : 火事や地震がおきたときに役立つものを入れておくため
 T : どんなものが入っているか予想してみましよう。
 C : ホース、消火器とか火を消す道具
 C : AED、ヘルメット、防災ずきん、酸素ボンベなど人を助ける道具
 C : 水、ふとん、食料
 C : トイレ？



質問をする子ども達

上記のように、倉庫は誰が管理していて、何のためにあるのかという話から、中にある道具の使い方まで教えていただいた。子ども達は積極的にメモを取り意欲的に質問をしていた。また、実際に災害テントとトイレを組み立ててもらい、さわってみたり、消火器体験をさせてもらったりして、体感しながら学習することができた。それを「防災倉庫ものカード」にまとめた。



防災について聞く様子

児童の意見

- ・ テントやトイレまであっておどろいた。水を使わなくてもよいトイレだった。テントは授乳や着替えのときにも役立つと言っていた。
- ・ 災害のときには学校が避難所になるなんて初めて知った。300人くらいしかここで生活することができないと言っていた。家でそなえておくことが大切だと思った。
- ・ いろんな種類の食料が入っていた。水を入れるだけで食べられるものや、缶の中にくっ付いたパンが入っているものがあった。どんな味がするのか気になった。

学習の気付き

防災倉庫ものカード

テント

左の絵はテントです。どんなときにやくだつかという、お母さんがミルクをあげたり、トイレをするときやきかえるときにっかいます。社防カそうこの中にあります。数は6こです。とても実用的でとてもいいなと思いました。防災倉庫は空欄で利用することができます。

防災ずきんのひみつをまとめたカード

防災倉庫ものカード

防災ずきんとその中

防災ずきんの中には、いろいろな物が入っています。それは、10円玉(100円玉)の電池がうずまに10円玉が入るから)の電池、パンツおむつ、ペン(おむつ拭き紙)なる)パン、缶、カイロ、手拭い、あめなどいろいろ入っているのも、おもしろいと思いました。

(2) 6年社会「縄文のむらから古墳のくにへ」の取組

6年社会「縄文のむらから古墳のくにへ」の学習で、大塚古墳を活用したり、学芸員をゲストティーチャーとして招いたりして、歴史に興味を持たせるようにした。

最初に、砂場でミニ古墳づくりを行った。子ども達は、「なぜ、こんなに大きな物を作ったのだろう」などの感想を持った。これを受け、次のような話し合いをした。

- T：大塚古墳について知っていることを発表してみましょう。
C：山のような形をしている。
C：道沿いにある。
C：家のようなものがあったような気がする。
T：行ったことがある人？
C：(3人挙手)
T：古墳祭りがあるでしょ？公民館がやっている行事で。その参加もいいですよ。
C：(5人挙手)
T：近くにあるけど、大塚古墳が何なのか分からない人？
C：多数。(中には、どこにあるのかもはっきりしない児童もあり)
T：来週は、大塚古墳に実際に行って、地域の古墳時代について調べてみましょう。
そのときに、学芸員のお話もありますので、質問があったら、どんどんしましょう。

次に、市役所の文化スポーツ課の担当者と学芸員にも同行していただき、印場大塚古墳の概略を説明していただいた。その説明の中には、この地域の豪族である「尾張氏」と印場大塚古墳とのかかわりの可能性にも触れていただいた。古墳のほかに、復元された天狗岩古墳や竪穴住居の見学もした。学芸員に質問する子ども達の姿がみられ、疑問点や気付いたことをその場で確認できた。

大塚古墳見学後、大塚古墳から分かったことをまとめ、次のような話し合いをし、分かったことや気付いたことを共有し合った。



見学のまとめをする様子

- T：大塚古墳の見学では、貴重な発見がいっぱいあったね。その気づきを発表しましょう。
C：大塚古墳は円墳でした。
C：古墳の周りには埴輪が発見されたようでした。
C：剣も発見されたようでしたが、今はどこにもないです。
C：復元家屋の中に入ってみると、とても涼しかったです。
C：私も同じで、中はひんやりしていました。
C：中は意外と広く感じました。
C：竪穴住居の真ん中では、火をたく場所があったようでした。
C：説明の中で、このあたりに力のある豪族がいたようです。
T：その豪族は何氏といったかな？
C：オワリ氏です。
T：よく聞いていましたね。オワリって今でも聞くね。みんなが住んでいるのは？
C：(全員で)尾張旭市。 → 黒板に漢字で「尾張氏」と書く。
C：その漢字だったんだ。見たことあるよ。
T：今でも使われるね。ほかにどこで使われるかな？
C：瀬戸線の駅名にある「尾張瀬戸」
C：ナンバーにある「尾張小牧」
C：愛知県の尾張と三河
T：いろいろあるね。今でも名前が残るくらい有力な豪族なんだね。



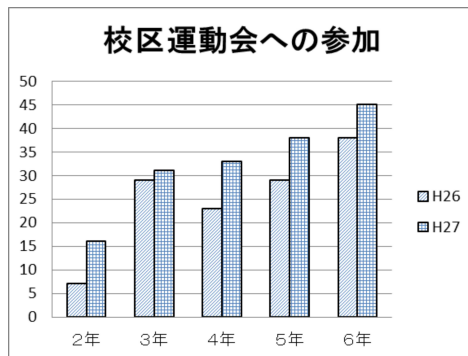
復元家屋見学の様子

9 実践の考察

(1) 研究仮説1の考察

ふれあい子ども会議で、毎回共通テーマの「ふれあい活動」について話し合いをすることで、子ども達の地域への関心も高まってきた。昨年度と比較して、地域の行事への参加率が増加している。また、盆踊りや敬老茶会へのボランティア募集にも積極的に応募する姿も見られるようになった。

このことから、ふれあい子ども会議で、地域の方々と話し合いをしたことは、学校の教育力を活性化し、地域の行事を盛り上げ、高め合おうとする気運を高めるのに有効であったと考える。



(2) 研究仮説2の考察

保育士体験をしているときの様子を見ると、園児をいたわろう、思いやろうとする気持ちが高まってきていることが分かる。

1 やってよかったこと、たのしかったことなどを書いてください。

保育園の子がとてもかわいかった。初めはこころにきやがた、たけど本を言葉お始めたり、急にシーンとわたり、すこしけんた聞いてくれたのでうれしかった。

また、保育士体験後の子ども達の感想をみると、保育士として働いたことに対する成就感が高まっていることも分かり、キャリア教育としても有意義であった。

このことから、保育園という異年齢の子ども達と関わり合いを持たせたことで、いたわりや思いやりの心を育てるのに有効であったと考えられる。

また、お年寄りの方が身近にいない子ども達にとって、給食交流会でお年寄りと一緒に会食するのは、よい経験となった。「うれしかった」「たのしかった」という低学年の感想にもあるように、地域の方々、お年寄りを歓迎していることが分かる。

いろいろなことをおしえてあげた。いっしょに、おはなしをしたよ。とてもたのしかったよ。もうーかい。いっしょにごはんをたべたり、いっしょにおはなししたいな。

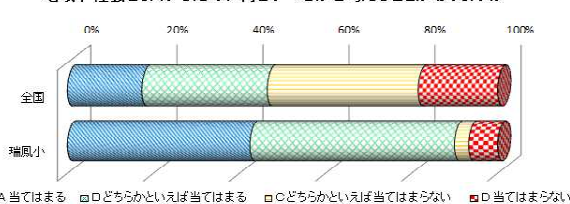
このことから、地域の方々やお年寄りと関わり合ったことにより、様々な世代とのつながりを自覚し、豊かな人間関係を築くことができたと考えられる。

さらに、学力学習状況調査の質問調査「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の結果を見ても、意識が高くなっていることが分かる。

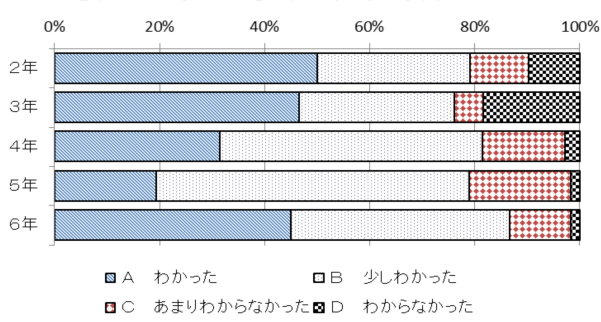
様々な世代の人々と関わり合い、つながり合うようにしたことによって、地域社会への関心が高まり、地域社会をよりよくしようとする気持ちが高まったと考えられる。つまり、地域のよさを知らせ、地域社会とのつながりを深めたことにより、地域に愛着を持ち、地域に貢献しようとする自己有用感が高まってきたと考えられる。

学力学習状況調査より

地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



地域の「人・もの・こと」がわかるようになりましたか(H27)

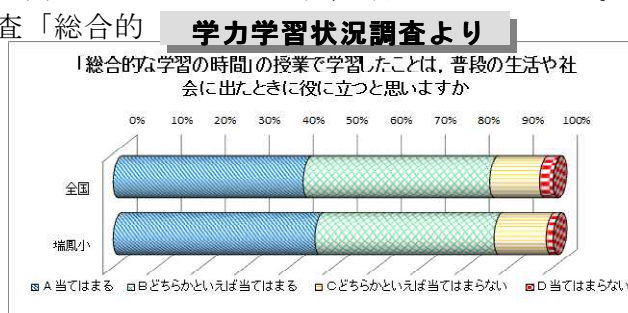


(3) 研究仮説3の考察

児童のアンケート結果を見ると、生活科や社会・理科などの地域学習をしている学年は、学校で学んだことを家や地域で活用しようとする傾向がある。ただ、地域の「ひと・もの・こと」を意図的計画的に授業に取り込むこと

が難しい面もあり、活用力や探求心を高めるまでには至らず、課題として残った。

また、学力学習状況調査の質問調査「総合的な学習の時間の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか」の結果は、ほぼ同じであり、今後さらに実践を重ねる必要がある。



10 成果と今後の課題

本研究では、学校・家庭・地域とのつながりを深める中で、コミュニティスクールを視野に入れた学校運営のあり方や児童の育成方法について研究してきた。2年間の研究の中で次のような成果と課題がでてきた。

(1) 研究の成果

- ア 学校支援ボランティアを設置し、地域コーディネーターを新設したことで、ボランティア活動を一層活性化したり、ゲストティチャーを容易に申し込むことができたりするようになり、学校教育をより充実させることができるようになった。
- イ 瑞鳳小ふれあい子ども会議で、地域の方々と話し合いをしたことは、学校の教育力を活性化し、地域の行事を盛り上げようとする気運を高めるのに有効であった。
- ウ 児童と大人で協働した活動をするには、子どもを中心に学校・家庭・地域を支え合い高め合う気運を高めるのに、有効な手段となった。
- エ 異年齢の園児と関わり合いを持たせたことは、いたわりや思いやりの心を育てるのに有効であった。
- オ 給食交流会など地域の方々と交流する場を設定したことは、地域の人への関心を高め、多様な人間関係を育むのに有効であった。
- カ 地域行事を掲示したり紹介したりすることは、地域の「もの」や「こと」への関心を高め、地域への愛着を持たせるのに有効であった。
- キ 授業の中で、地域の「ひと・もの・こと」を意識することは、児童・教員ともに地域への関心を高めるのに有効であった。
- ク 授業の基本となる「授業スタンダード」を意識することによって、授業規律などを浸透するのに役立った。

(2) 今後の課題

- ア 瑞鳳小ふれあい子ども会議に出席する児童は、児童会役員・議員であるため、学校をよりよくしていこうという意識は一部分では高まったものの、学校全体としては、まだ不十分な部分もあった。瑞鳳小ふれあい子ども会議で話し合ったことを、児童全体、学校全体へと還元する方法を検討する必要がある。
- イ 様々な世代の人々と関わり合い、つながり合う機会は多くなったが、自己肯定感をより一層高めるための指導方法についてさらに研究する必要がある。
- ウ 地域の「ひと・もの・こと」を常に意識して取り組むというところまでには至っていない。教員が一層地域を知り、授業に活かそうとするシステムをさらに充実させる必要がある。
- エ 活用型・探求型の授業展開については、十分とはいえない。授業力をさらに向上させるための研修を充実させる必要がある。

本研究は、E S D、キャリア教育、市民教育、郷土教育など様々な可能性をも秘めている。今後もさらに研究を発展・深化させていきたい。